

平成26年度 胎内市総合的な学習の時間部 活動報告

部長 小野沢 一世

1 研究主題

体験と言語活動をとおして、学びを深める子どもの育成

2 研究内容の概要

- ・研究主題に沿った実践発表会や授業研究をとおして、部員の授業力向上を図る。
- ・生活科と合同で研修することで、生活科と総合的な学習の時間の接続の図り方を考える。

3 研究の実際

(1) 実践発表会

会場 胎内小学校 9:30～ 参加者 8名

- ・研究主題に沿った実践発表を行った。計画的に言語活動を入れていく必要性や相手意識や目的意識をもたせた言語活動の重要性について話題になった。また、ファシリテーションやイメージマップを活用した学習についての発表があり、主体的に活動に取り組ませる工夫について考えた。
- ・地域とのかかわりや地域素材について情報交換した。各学校における校外学習の場所や講師を紹介し合った。



(2) 授業研究会

会場 中条小学校 13:55～ 参加者 9名

① 授業者 神田 章 先生 (中条小学校 教諭)

② 单元名 5年 総合的な学習の時間

「胎内市のよさを知ろう！ふれよう！伝えよう！」

③ 指導者 岩崎 保之 様 (新潟青陵大学 教授)

④ 授業・協議会の概要

- ・本時のねらいは、「米粉のよさを地域の人に知ってもらうために、これまで調べて得た情報を基に、地域の人に最も伝えるべき内容を話し合う活動をとおして、PRポスターに掲載する内容を決める。」だった。子どもたちの問題意識を高める課題提示や互いの考えを可視化するためのホワイトボードの活用について提案された。
- ・ファシリテーションの授業を参観し、ファシリテーションのルールを知ることができた。一人一人が意見を発表する場をもつことの大切さについて話し合った。
- ・言語活動を活性化し、児童の学びを深めるホワイトボードの活用を提案してもらった。低学年担任からは、「生活科の授業でも活用したい」という感想が出された。
- ・指導者からは、「体験」と「言語」をつなぐのが「思考」である。子どもたちが実感のもてる言語活動の充実が求められる。言語活動の質的な充実を図らなければならない、という話があった。次の学習指導要領のキーワードとして、①つなげる、②組み合わせる (道具・場・他者)、③組みかえる (新たな視点から問題群を切り替える) の三つを教えていただき、今後の流れを知ることができた。



4 成果と課題

- ・それぞれの実践を紹介し合ったり、実践上の問題点を共有したりして、今後の実践に生かせることを得ることができた。授業研究会は、言語活動の重要性を確認する機会となった。
- ・授業研究に向けて指導案検討をするなどして、指導力向上を目指した取組を考えていく必要がある。